

知って備える防災メモ

第10回



暴風雪

雪を伴った暴風によって、重大な災害の発生する恐れがあるときに発表されるのが『暴風雪警報』です。気象台では『暴風による重大な災害』に加えて『吹雪や吹き溜まり等による重大な災害』の恐れについても警戒を呼び掛けます。



●**暴風雪の恐れがあるときは**
発達した低気圧の通過などにより天気が急変し、風雪の強まる恐れがある場合は、最新の気象情報をチェックし、できる限り外出を控えましょう。しばらく外出できないことも考えられるため、食料や飲料水などを確保しておくほか、停電に対する準備もしておきましょう。



やむを得ず車で外出しなければならぬときは、吹雪や吹き溜まりによって車が動けなくなることも想定し、防寒着や非常食、スコップ、けん引ロープなどを用意することも十分に燃料があることを確認しましょう。また、運転をしながら、吹雪により視界が急に悪化するなど危険を感じたときは、無理をせずコンビニエンスストアやガソリンスタンド、道の駅などで天気の回復を待ちましょう。

問い合わせ
室蘭地方気象台
(☎22)4249

人が輝き まちがときめく



仲間たち

Group

書道サークル『楽伸会』

書道サークル『楽伸会』は、市民活動センターで行われた『初心者書道教室』への参加者がより深く書を学ぶため、平成24年6月に結成しました。当初7人だったメンバーが今では12人に増え、毎月第1・3月曜日の10時から12時まで市民活動センターで活動しています。
代表の中里武さん(なかざた たけし)は「私たちは普段何気なく字を書いていますが、上手に書くことと思うと意外と難しいものです。筆の運びなど書道の基礎を学び、自分の住所や名前など、なじみのある字をきれいに書けると達成感があります。少しずつ訓練した成果が形に残るのもうれしいですね」と、書道の魅力について語ってくれました。

筆と墨で書き手の感情までも表現

会では年に2回の展示会を開催しており、メンバーはそれを目指して日々練習をしています。発表に向けての練習の中で、みんなが他の人の字にも触れて互いに刺激し合い、楽しく腕を磨いています。
見学を希望する方は、中里さん(なかざた たけし)まで。
(☎5176)まで。



▲手本を見ながらの練習の様子

わくわくした表情で参加している親子連れが印象的

「カルチャーナイトを始める前は、どれくらいの人に来てくれるかと心配していましたが、実際にたくさんの親子や市民が参加してくれたのを見て、うれしかったですね」と笑顔で話す藤井彰さん。

藤井さんが登別市でカルチャーナイトを開催するきっかけは、札幌市で10年前から開催されているカルチャーナイトの実行委員を務める知人の勧めでした。

「夜間に開放された公共施設や民間施設で、市民が地域の文化に触れ楽しむ催しであることに魅力を感じ、仲間を掛けて、実行委員会を立ち上げました。この地域では初めてのイベントでもあり、まずは市民にカルチャーナイトを知ってもらおうという気持ちで、施設への参加のお願いやチラシ作りなど手弁当で活動を始めました」と、藤井さんは振り返ります。

「消防車両の体験乗車やジェルキャンドルづくり、夜の森ムーンライトウォークなど、体験型のプログラムを中心に、普段とは違う夜のイベントにわくわくした表情で参加している親子連れが多く、とても印象的でした。参加施設も、



▲消防車両（はしご車）に体験乗車する参加者（左3人）

市民に活動を知ってもらおう良い機会になったようです」と、藤井さんは手応えを感じています。

これまで含まれていない施設にも参加してほしい

市民にカルチャーナイトを通して、地元のことをもっと知ってほしいと話す藤井さん。

「より多くの方に参加していただくため、これまで参加施設に含まれていない、市議会や銀行などにも参加してもらったり、観光客にも登別市をもっと知ってもらえるよう、登別温泉街にも参加施設があったりするといいですね。他の地域の文化を紹介したり、観光客と交流したりするのも楽しいですね」と藤井さんは、3回目となる来年のカルチャーナイト開催に早くも思いを巡らせています。



KIRARI

ふじ い あきら
藤井 彰さん(柏木町)

夜間に開放された公共施設や民間施設で、市民が地域の文化に触れ楽しむ催しとして、昨年からはまった『のぼりべつカルチャーナイト』。今年も9月20日(金)に開催され、昨年来を上回る約300人が参加しました。

カルチャーナイトは、日ごろ経験できないことを体験したり、文化に触れたりする地域の文化行事のため、年に一度、子どもたちにも特別の夜ふかしが許されるという、北欧が発祥の催しです。

札幌市や函館市、夕張市などでも開催されているカルチャーナイトを登別市で始めた藤井さんに、きっかけや思いを聞きました。

カルチャーナイトを通して地元のことをもっと知ってほしい



昭和29年、東京都生まれ。59歳。

昭和38年、東京都から登別市に転居。道内の大学を卒業後、札幌市の呉服店に勤務し、昭和59年に登別市に戻る。富士町で両親が経営する呉服店を継ぎ、現在は同所で婦人服販売の『ブティック花』を経営する。